

## 会 議 結 果 報 告 書

会議の名称	令和4年度 志木市介護保険運営協議会・地域密着型サービス検討部会
開催日時	令和5年2月7日（火）13時50分～15時10分
開催場所	志木市役所 大会議室3-1
出席委員 及び 関係機関	佐藤陽部会長、西野博喜委員、宮下 博委員、前田喜春委員、 株式会社夢眠ホーム 佐藤信輔代表取締役 <span style="float: right;">（計 5人）</span>
欠席委員	金野理恵委員 <span style="float: right;">（計 1人）</span>
説明員	長寿応援課 渋谷幹彦課長、田島宗貴主査、 株式会社夢眠ホーム 佐藤信輔代表取締役 <span style="float: right;">（計 4人）</span>
議 題	(1) 公募の評価について (2) 公募事業者のプレゼンテーションによる評価
結 果	審議内容の記録のとおり <span style="float: right;">（傍聴者 0人）</span>
事務局職員	長寿応援課 渋谷幹彦課長、田島宗貴主査 <span style="float: right;">（計 2人）</span>
審 議 内 容 の 記 録 （ 審 議 経 過 、 結 論 等 ）	
<p>1 開会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>（1）公募の評価について</p> <p>&lt;説明員&gt;</p> <p>資料1と資料2で説明する。</p> <p>資料1について、評価表の各項目について1点から5点の間で採点すること。各委員の評価結果を踏まえ、最終選定結果は市長決裁となること。評価点数の合計が、総評価点数の6割に満たない場合は、選定事業者無しとなること。今回の評価と、介護保険法上の指定は別となるが、指定申請の決定は、部会開催の間が無いことから、直近の介護保険運営協議会時に報告事項とすることを説明した。</p> <p>&lt;質疑応答&gt;</p> <p>なし</p>	

(2) 公募事業者のプレゼンテーションによる評価について

<説明員>

株式会社夢眠ホーム 佐藤信輔氏よりプレゼンテーション。

○概要説明

会社概要としては、全国に30カ所以上の特定施設を運営している。他にもグループホームやデイサービス、訪問看護ステーションなどを全国展開している。特に1番多い事業展開が訪問看護ステーションを併設した有料老人ホームであり、医療を受ける方を積極的に受け入れている。これは有料老人ホームで医療が必要な方は追い出されてしまうことが多いため、最後まで同じ場所で最後まで過ごせるよう強い思いがある。看護小規模多機能は実際には初めて運営するところだが、現在各所で運営している特定施設に実際に相談が多いのが病院や看多機であり、看多機から訪看付き特定施設に移行するのは非常に多く、小多機は既に運営をしているところであり、看多機の運営に差し支えないと考えている。看多機の管理者として現在正看護師として働いている者を充てる予定で内定しており、看護師が中心となった医療提供が必要な方の受け皿としたい。最近は全ての施設でコンプライアンスを重視しており、BCP対応や虐待対応の研修など、全拠点に対し情報提供をし、厳正に対処している。各施設と本部で一体的に運営することで、利用者の満足度を高めていきたい。

<質疑応答>

委員：受け入れ可能な罹患の基準はあるのか

説明員：病院でないと生命の危機がある人は、全て受け入れている

委員：防災関係で、この場所だと2階まで水が来ってしまうと思うが、防災避難計画はどう考えているか

説明員：全ての施設で年2回避難訓練を行っている。市の指定する実際の避難場所へ避難する実践も行っている。

委員：どこまでの方を垂直避難できるか考えているのか。

説明員：実際に避難訓練をすると、医療が重い方の方が実際には楽。認知症の重い方の方が避難は大変であるため、訓練経験を生かして対応していく。

委員：協同医療機関の夢眠クリニックとの関係は。

説明員：自分が理事を行っている。24時間オンコールでつながるようになっている。主治医は利用者が定めるので必ずではないが、緊急時などは必ず医師とつながる体制を整えている。病院によっては重い対象者は嫌がる病院もあるが、これは絶対つながるところを協力医療機関としている。

委員：科目は内科か？認知症や転倒があるので精神科や整形外科も必要だと思う。

説明員：整形外科については別のクリニックに頼むしかない。精神科には自分が理事の別クリニックがある。ただ精神科は薬のコントロールがあるので、薬がきまってから戻ってきてもらっているのも、長くなる方も居る。

委員：日本は、かかりつけ医の定義が曖昧で悩ましいが、主治医以外でも、相談できるということですか。

説明員：そのとおり。主治医を選ぶ選択肢として提供したい。気が合う先生が1番良く、日常を話せる先生がよいと考えている。

委員：資本金が5000万から9900万になって、また5000万に戻ったのはなぜか。

説明員：国等からのコロナの支援が企業規模で変わるため、(支援額の大きい)中小企業に変えるため一時的に5000万に変えた。

委員：設計図面だが、空気の流れがわからない。換気扇などはどうなっているのか。

説明員：給食室は換気扇がメイン

委員：事務室の換気はどうなっているか。

説明員：事務室は受付部分にしかない。事務室はスケルトンになっており、プラスチックになっており、閉鎖的にはなっていない。

委員：この構造だと空気が溜まってしまう。これから作るのであれば2方向に空気の流れを作った方がよい。風除室などに換気扇を作るなどしてほしい。換気について資料をもってきたのでコピーして参考にして欲しい。外気の導入は非常に有効なので工夫して欲しい

説明員：志木市が良いと言えば考えていきたい。

委員：2Fも換気がない。

説明員：2Fは外気導入がない。

委員：施設としてクラスターはあったのか。

説明員：クラスターはコロナ第1波の時にあった。それ以外は1人でも濃厚接触ができれば徹底的に止める対応をしている。どうしても利用者が罹患すると亡くなってしまうので、徹底対応としている。

委員：離職率が多く見える。どう補充していくのか。

説明員：離職は入ってすぐの人が多く。他の事業所より給料を高く設定し、かつシフトどおり残業なしで働くこととすると、すぐに辞める人か、ずっと長く勤めてくれるかの二極化している。また重度医療者を預かっている施設では月に7~8人亡くなる施設もあり、ターミナルケアに興味がある人でも、精神的に耐えられなくなって辞めてしまうケースもある。

委員：スタッフが受ける研修体制は？

説明員：いろいろな外部事業所の研修を参考に、運営本部で作成した研修をおこなっている。施設の規模や、医療などの種類によって研修内容を変えているので、かなり厚い研修計画となっている。研修計画もコンプライアンスとルールの徹底を主としているので、絶対守っているし受講者にも必ず受講後の所感も必ず全職員に求めている。

委員：当初配布資料から追加資料になったのは何か。

事務局：当初配布資料の漏れが判明したため、当日配布となったものである。申し訳ない。

説明員：従業員の応募が多く、半分くらいしか面接が進んでいない。有資格者も多い。

委員：続く人が続くのか。

説明員：お給料だけで軽く考えている人は続かない。利用者の心のケアが重要なので接遇が合わないと言くと長く続かない。

委員：身寄りのない方への負担軽減について、身元保証を行う可能な範囲とは。

説明員：お金の管理は一切しない。NPO法人と連携しているので、まず身元保証がつかない場合はない。

委員：病院の付き添いはするのか。

説明員：訪問診療が多いので、まず無い。救急搬送で病状を伝えられない場合だけ付き添うことはある。

委員：単身の人の金銭管理はどうするのか。認知症など判断能力が不十分な人は利用しないのか。

説明員：現場は金銭を触らないのを原則。万が一現金書留なので送られてきてしまったケースなどは全て本部で一括管理している。一切やらないを原則だが、全施設で700人ぐらい全国でいるが数名だけそういう人はいる。

委員：これから単身高齢者が増えていく。

説明員：身元保証してくれる所は、結構現金管理もやっていただけるケースもある。金銭事故を起こせば全てが終わりなので、会社でお金を負担しても現金管理もしてくれるところと連携していく。

委員：地域密着型施設ということで、地域との関わり合いや努力していることがあるか

説明員：コロナ前は、施設ごとに近隣学校の吹奏楽などを呼んで交流していた。自治会から良くいわれるのが消防団への参加依頼が多いため、若手社員を参加させていただいている。

委員：施設ではだれが地域とかかわるのか。

説明員：一般的には施設長だが、例えば夏祭りなどをやると若手のリーダーが育つので、会社にとっても良い影響が多い。学校の校長先生への挨拶などは自分も行っている。

委員：地域ボランティアとかはいるのか

説明員：ケースバイケースだが、オペラを唄いにきてくれている施設がある。特定施設はやりやすい。

委員：地域とのつながりを、施設を拠点として深まるといいと考えている。

説明員：自分は盆踊りが好きなので、現在の施設と新しい施設で合同でできたらいいなと考えている。世代差のある学校と連携していきたい。

委員：地域社会と学校は深いつながりがある。コラボレーションがあるといい。

委員：その話は施設長がするのか。

説明員：職種的に学校の産業医などもやっているのだから、学校とは話しやすい。

委員：小中学校とも関わりをもっていくつもりか。

説明員：避難訓練もやらせてもらわなければならないので、考えている。

委員：認知症ケアはどのようにされているか。

説明員：精神科の認知症病棟も持っているのだから、そこの先生を呼んで研修することもある。基本的な資料を作ってもらいたいこともある。ただし精神科に通う認知症の方は、普通の認知症の方と違うが、基本対応は傾聴になるので、そこは参考になっている。

委員：職員や利用者に対しての暴力行為が問題になることが多いがどうなのか

説明員：施設がら、自分の意思を示せない利用者も多く、非常に難しい問題だと認識している。近い問題があれば、全拠点に最後の処分まで周知している。コロナで長らく運営推進会議も止まっているところだが、最近は利用者から書面で意見をもらい、少しでも取りこぼしがないようにできればと考えている。

委員：逆に訪問にあって暴力を受けるようなケースはあるか。

説明員：よくあり、すぐに報告がくる体制となっている。

委員：なかなか難しい問題だと思う。

説明員：職員の男女比の問題も多く、施設運営ではよく考えていかなければならない。

委員：質疑応答が終了したが、この後のスケジュールを教えて欲しい

事務局：最終的な決定は市長決裁となる。2週間以内を目安に、最も遅くなっても今月末までには、事業所及び選定委員の皆様にご通知したい。

### 3 閉会